地域おこし協力隊とは？

地域おこし協力隊とは、総務省が平成21年度から取り組んでいる制度で、都市部の意欲ある人材が地方へ移住（最長3年）し、地域力の維持・強化を目的とした支援活動を行うものです。

一枚の写真に込められた想い



荒木（あらき） 弥子（みこ） 隊員　30歳　東京都から移住

地域おこし協力隊最後の年になり、退任後を想像しつつ3年間にあったことを振り返る時間が多くなりました。協力隊として活動する中で、栗に従事することはもちろん、カメラを使った撮影やデザインにも取り組んできました。地域の子どもたちが農業体験をする様子を撮影したり、広報活動として使用するためカフェを巡ったり、地域で活動する作家の作品を広報用に撮影したりと、さまざまな場面で写真に関わる機会がありました。

栗に従事してきた3年間ではありましたが、やはり色濃い記憶は写真の方なのだと気づきました。

最近、芸術品の撮影を通して、改めて写真の難しさを感じる出来事がありました。

笠間市は陶芸作家の方が多く、何人かと知り合いになり撮影の機会をいただきました。作家の方が時間をかけ、こだわりをもって制作した作品。その形や色、質感、込められた想いを、たった一枚の写真でどのように伝えるか。実際に撮影してみると、作品をきれいに写すだけでは十分ではなく、どの角度から撮るのか、光をどう当てるのか、どこを切り取るのかなど、考えることが数多くありました。

作品そのものが持つ魅力はもちろん、作家の方が大切にしている部分を理解し、それを写真の中で表現することが重要です。しかし、撮り手が良いと思った構図が、必ずしも作り手の意図と一致するとは限りません。撮影を進める中で確認や調整を重ねながら、作品の魅力を伝える方法を探っていきました。

写真を見る人にとっては一枚の画像でも、その背景には作り手の技術や時間、こだわりがあります。そうした目に見えない部分まで想像してもらえる写真を撮ることの難しさを、改めて実感しました。同時に、作品をつくる人の想いに触れ、その魅力を伝える役割に大きなやりがいも感じています。高校生の頃に始めたカメラは、これまで私自身の経験や視点を広げてくれました。笠間市での活動を通して、地域にはさまざまな技術や想いを持ってものづくりに取り組む方がいることも知りました。撮影を通じて人や作品と関わることで、これまで気づかなかった地域の魅力を知る機会も増えています。

これからも、写真やデザインを通して誰かの想いや作品の魅力を伝えることを大切にしながら、これまでの活動で得た経験や気づきを、今後の撮影やものづくりに生かしていきたいと思います。



笠間焼の撮影



まちのベンチで開催されたぺこだの畑食堂



栗の花とそのイガのこども

協力隊の日々の活動をSNSで発信中！

フェイスブック　インスタグラム

問 企業誘致・移住推進課（内線 595）